

【18才のお母さん】

嬉しい手紙が届きました。18才でお母さんになったのです。「私は 3月25日の朝7時30分に無事女の子を出産しました。病院からは帝王切開になりそうだと言われていたので心配でしたが、色々な方が祈ってくださり、お腹を切らずに母子ともに元気に退院できました。



2日間にわたって22時間の陣痛の間、ずっと主人はそばで支えてくれました。立会い出産だったので、赤ちゃんの生まれてくる感動、命の尊さを二人で感じる事が出来ました。

そして何よりも赤ちゃんを産んで良かったと思うことは、お母さんに心から感謝できる心が持てたことです。今までは私はお母さんにあまり愛されてないと思っていました。お父さん子だったせいもありますが。

でもそんなことありえないということが、よく分かりました。妊娠・出産は本当に大変なことです。私が赤ちゃんをいとおしく思うのと同じ様に、お母さんも18年間私を愛し、見守っていてくれたんですね。親の気持は親になってみないと分からないというのは、本当ですね。主人も同じ気持で感謝しています。これからは、もっと話し合い、近いところにいたいと思います。

ところで赤ちゃんの名前「こころ」ですが、これはただ「ひとの心がわかるように」ではなく、自分の気持をちゃんと伝えることができるようにという意味もふくんでいます。今日本では、自分の気持を伝える手段が分からず、人を傷つけたり、自ら命を絶つ子供が増えています。そんな悲しいことがこれ以上起こらないようにと、つけました。

これから先、不安なことばかりですが、神さまが与えてくれた生活を精一杯生きていこうと思います。写真を送りますので見て下さい。」

彼女は高校の途中、17才で身重になりました。相手は大学を卒業したばかりの社会人新入生。給料だって十分ではありません。しかし両方の親が本人たちの意向を確かめた上で、受け容れてくれました。彼女を小さい時から見守ってきた教会員たちが教会に申し出て、皆で美しい結婚式を準備して、祝福してく

れました。

中学校・高校の先生の評価は必ずしも良いものではなかったとしても、この手紙でも分かりますように、彼女はしっかりと自分を見つめ、また考えることの出来る人に成長していました。

結婚の報告の手紙も、自分がどうして彼と結ばれたのかを、反省をこめて見事な文章で説明してくれました。そして何よりも嬉しかったのは、これから生まれてくる子どもを育てながら、この子と一緒に勉強強していきますと書いてありました。人生に対する肯定的な姿勢は、愛されている自分を自覚した時に持つことができる、神と人に対する深い信頼感から生れているのではないのでしょうか。

【母の日の感謝】

シンガポール時代の思い出の一つです。母の日の翌日にメールをいただきました。「昨日の母の日礼拝に伺えてとても幸せでした。——家族をもってからは、家内への思いやり、子供の心配ばかりで、年老いた母への思いやり、こんな自分をここまで育ててくれた感謝の気持ちを表すことが不十分であったと、悔い改めさせられました。

礼拝で子供たちがお母さん有難うと歌った頃から、母への思いで涙が止まらなくなりました。二週間前に蘭の花をデパートから送って、それで終らせた積りの母の日を、本当に意味をもった母の日として過ごしたことを感謝します。親不孝にならずに済みました。素晴らしいひとときを過ごしました——」



シンガポールの名花の蘭を、ちゃんと送っておられるのです。それでも「家内や子供たちへの思いをつい優先させてしまっていた」とは率直です。心の優しい方ですね。よかったなーと私自身、嬉しくなりました。

母がいるから 家に帰りたかった もし 天国に母が居なかったら
門の外に いつまでも待っていよう 長い間 待ってくれたのだから

(河野 進)

あなたは私を生まれさせ、母のふところに
私を安らかに守られたかたです

(聖書)